

## ワクチン政策に関する議員連盟設立総会

～議連設立総会及び子宮頸がん対策の推進に関する勉強会の開催について～

平成22年2月26日 午前10:00～11:00

自民党本部 8階 リバティール4号室

### 式次第

1. ワクチン政策に関する議員連盟設立総会
  - 役員選任及び会則について
  
2. 子宮頸がん対策の推進に関する勉強会
  - 講師紹介
  - 講義  
鈴木 光明先生  
(自治医科大学医学部 産科婦人科学講座教授)
  - 質疑応答
  - 講義  
松本 陽子氏(NPO 法人愛媛がんサポート おれんじの会)
  - 質疑応答
  
3. むすびの言葉

以上

## ワクチン政策に関する議員連盟

### 設立趣旨

新型インフルエンザの脅威の顕在化などにより、国民の間でワクチンに対する認識が一層高まり、また、医療において「治療」のみならず「予防」が重要となっていることもあり、ワクチンの持つ予防の効果には大きな期待が寄せられている。

しかしながら、我が国においては、ワクチンが諸外国に比べても十分に活用されているとは言えない状況にあり、こうした中、ワクチン関連政策の現状と課題に対する理解を深め、より良い予防医療及び治療の確保を目指して、産業政策や消費者の視点も含めて、ワクチン政策のあり方について議論を行い、必要な政策を立案し、実現していくことが重要である。

本会は、ワクチンの国民への普及とワクチン産業の育成を目指し、それにより疾病を予防することによって、ひいては罹患率の減少を目指し、国民の健康増進を目的として活動するものである。

## 子宮頸癌予防ワクチンの公費負担の根拠

自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科 教授

今野 良

子宮頸癌は多くの癌の中では非常に例外的に、その原因がほぼ特定されている癌である。1983年、zur Hausen が子宮頸癌組織から HPV (Human papillomavirus) 16 をクローニングしたとことにより、発癌原因解明の糸口が付けられた。HPV の持続的感染が子宮頸癌の原因であると認識された 1980 年代後半からワクチンによってその感染を防ぐという一次予防戦略の研究が始められた。2006 年 6 月には世界で初めてアメリカで 4 価 HPV ワクチンの使用が承認され、2009 年 10 月、ついに日本でも臨床試験を経て、子宮頸癌予防のための 2 価 HPV ワクチンが使用承認された。2010 年には 4 価 HPV ワクチンの承認も期待されている。

子宮頸癌の原因がハイリスク HPV の感染であり、これの予防あるいは適切な管理を行えば子宮頸癌を根絶といえるほどの激減せしめることが可能である。海外の動きとしては、WHO、GAVI (Global Alliance for Vaccines and Immunization : GAVI, [www.gavialliance.org](http://www.gavialliance.org))、UICC (世界対癌連合) をはじめ世界の多くの機関・団体が HPV ワクチンによる子宮頸癌の一次予防がランクの高い公衆衛生学的政策として推奨している。子宮頸癌の発生抑制効果において、HPV ワクチンによる介入が、検診の充実と共に非常に有効であると評価されているからである。

日本における任意接種ワクチンは明らかに定期接種ワクチンに比べて接種率が低い。HPV ワクチンが承認されても、国などの公的な資金援助がなく、任意接種のままであれば子宮頸癌の発生率を減少させるのに十分なほどの接種による影響は期待できない。富裕層の子女あるいは健康意識の高い人々のみがその恩恵を享受するワクチンに止まってしまう。思春期前の女子に対する公費による全員接種が望ましいことは間違いなく、すでに多くの先進諸国や、アジアではマレーシアでその取り組みが行われている。HPV ワクチンの導入を決定するために各国で医療経済学的なモデリングを行い、その費用対効果が裏付けられて国の政策として決定がなされている。日本においても思春期前女子に対する無料接種は非常に費用対効果が高いことが検証されている (今野 良、他. 産婦人科治療 97: 530-542, 2008)。

世界的な子宮頸がん予防に関する学会 EUROGIN 2008 が示したロードマップ (WHO の Franceschi ら、Int J Cancer. 125: 2246-55, 2009.) のなかの表をご紹介します。欧米の先進国のようにすでに検診普及率が 85% と高いところでは、HPV ワクチンの接種がたとえ 10% と低くても、すでに子宮頸癌の発生は 86% 予防されている、これに加えて HPV ワクチンの接種率が 85% になると、予防できる子宮頸癌は 95% にも及び、ほぼ根絶できる。一方、国の社会的医療的経済資源が著しく乏しく、今後も検診の充実が期待できない地域で

は、GAVIのような世界的支援機関の援助によってHPVワクチンが供給されれば、ワクチンのみで64%の子宮頸癌予防が期待できる。世界的規模での最悪のシナリオは検診を受けられない女性にワクチンが供給されないことだと言っている。翻って日本では、経済資源を理由に検診を受けられない女性はいないはずであるが、国の啓発・教育に関する熱意の不足が低い受診率（約20%）を招いている。HPVワクチンに対しても公費支援が無ければ、接種率が高まることはあり得ない。

20年後、30年後、先進諸国だけでなく、発展途上国においてもGAVIなどの支援によってHPVワクチンが接種された国では、子宮頸癌の発生が激減する。将来、海外では既に珍しい病気になった子宮頸癌が日本にはまだたくさん発症している、などと言われたいようにしたい。お金があるのに使い方を知らないがために、女性が死亡したり子供を持たなくなったりする国ではなく、高い見識を持って予防医学を実践する国にしていく必要がある。

### 予防することのできる子宮頸癌(%)

検診受診率	ワクチン接種率 (非検診女性/対象人口)		
	85%	50%	10%
85% <b>ほぼ完全</b>	95	91	86 <b>先進国型 高資源</b>
50%	82	69	54
10%	67	44	17
0%	64	38	8 <b>日本の 現状</b>

**低資源**

EUROGIN Roadmap toward a consensus  
S. Franceschi (WHO, IARC) 15, Nov, 2008, EUROGIN2008 に加筆

子宮頸がん予防ワクチン要望書リスト (2009年12月14日現在)

日時	団体/グループ名	内容
2006年10月25日	社団法人 日本助産師会	子宮頸がん予防ワクチン早期承認・早期導入
2007年9月18日	日本産婦人科学会 婦人科腫瘍委員会	子宮頸がん予防ワクチン早期承認
2008年2月22日	公明党	1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。 2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。 3. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。
2008年3月24日	京都府議会	同上
2008年5月13日	日本産婦人科医会	子宮頸がん予防 HPV ワクチンの早期承認と接種普及に関する要望書
2008年6月1日	福岡県北九州市	1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。 2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。 2. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。
2008年6月1日	埼玉県秩父市議会	同上
2008年6月1日	埼玉県富士見市議会	同上
2008年6月1日	静岡県三島市議会	同上
2008年6月9日	埼玉県宮代町議会	同上
2008年6月11日	札幌市議会	同上
2008年6月12日	兵庫県議会	同上
2008年6月13日	埼玉県三郷市議会	同上
2008年6月18日	北海道千歳市議会	同上
2008年6月18日	東京都新宿区議会	同上
2008年6月19日	長野県塩尻市議会	同上
2008年6月20日	埼玉県戸田市議会	同上
2008年6月23日	大阪府伊丹市議会	同上
2008年6月23日	千葉県船橋議会	同上
2008年6月24日	千葉市議会	同上
2008年6月25日	東京都板橋区議会	同上

子宮頸がん予防ワクチン要望書リスト (2009年12月14日現在)

2008年6月25日	東京都三鷹市議会	同上
2008年6月25日	東京都文京区議会	同上
2008年6月25日	兵庫県明石市議会	同上
2008年6月25日	秋田県大山市議会	同上
2008年6月25日	兵庫県神戸市議会	同上
2008年6月26日	大阪府枚方市議会	同上
2008年6月27日	大阪府摂津市議会	同上
2008年6月27日	北海道函館市議会	同上
2008年6月26日	埼玉県鴻巣市議会	同上
2008年6月27日	富山県議会	同上
2008年6月27日	広島県広島市議会	同上
2008年7月2日	奈良県葛城市議会	同上
2008年7月4日	名古屋市議会	同上
2008年7月7日	岩手県議会	同上
2008年7月9日	福島県議会	同上
2008年7月9日	東京都港区議会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子宮頸がんの検診受診率向上策の充実</li> <li>2. 子宮頸がん予防ワクチンの早期承認及び承認後の接種への助成策を講ずること。</li> </ol>
2008年7月22日	高知県議会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。</li> <li>2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。</li> <li>3. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。</li> </ol>
2008年9月1日	東京都小金井市議会	同上
2008年9月1日	愛知県名古屋市議会	子宮頸がん予防ワクチン早期承認
2008年9月1日	愛媛県今治市議会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。</li> <li>2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。</li> <li>3. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。</li> </ol>
2008年9月4日	さいたま市議会保健福祉委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子宮頸がん検診(細胞診・HPV検査)の検診受診率向上のため、国は地方自治体に対し財政措置を行い、併せて、普及啓発に努めること。</li> <li>2. 子宮頸がん予防ワクチンの承認に向けた審査をすすめること。</li> <li>3. 予防ワクチンが承認された後は、国の責任において、ワクチンの接種へ向けた検討を行うこと。</li> </ol>
2008年9月24日	奈良県香芝市議会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。</li> <li>2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。</li> <li>3. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。</li> </ol>

子宮頸がん予防ワクチン要望書リスト (2009年12月14日現在)

2008年9月26日	愛媛県大洲市議会	同上
2008年11月10日	神奈川県藤沢市議会	子宮頸がん予防ワクチン早期承認
2008年12月15日	日本婦人科腫瘍学会 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議	子宮頸がん予防ワクチンの医療保険制度への組み入れ
2008年12月19日	埼玉県深谷市議会	1. 予防ワクチンの早期承認に向けた審査を進める。 2. ワクチン承認後も接種への助成をおこなう。 3. ワクチンの開発、製造、接種のあり方について、必要な対応を講じる。
2008年12月19日	静岡県議会	同上
2009年3月24日	東京都足立区議会	同上
2009年3月31日	与党ワクチン議連	1. 子宮頸がん予防ワクチンの早期承認 2. 子宮頸がん予防対策の策定(HPV検査と細胞診の併用を推奨) 3. 子宮頸がん予防ワクチン普及のための施策の早期検討(ワクチン接種機会均等化のための予算措置や保険適用も見据えた検討および副反応に対する補償制度) 4. ワクチン政策を推進するための行政改革(ワクチン行政全般を担う組織の創設) 5. 子宮頸がん予防政策推進及びワクチン推進のための立法措置(予防接種法の抜本的改正)
2009年7月2日	子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 NPO 法人子宮頸がんを考える市民の会 社団法人ティール&ホワイトリボンプロジェクト 財団法人 日本対がん協会	1. 細胞診と HPV 検査を用いる有効な検診制度の確立 2. 子宮頸がん予防ワクチンの早期承認 3. 子宮頸がん予防ワクチン接種の公費負担や公的医療保険制度による被接種者の費用負担軽減
2009年10月16日 (ワクチン承認日)	社団法人 日本産科婦人科学会 社団法人 日本小児科学会 特定非営利活動法人 日本婦人科腫瘍学会	1. 11-14歳の女子に対して優先接種。費用は公的負担とすべき。 2. 15-45歳の助成に対しても接種推奨。飛鳥は何かの公的支援が望まれる。
2009年10月16日 (ワクチン承認日) 要望書(案)発表	子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 NPO 法人子宮頸がんを考える市民の会 社団法人ティール&ホワイトリボンプロジェクト 財団法人 日本対がん協会	1. 11-14歳女児への接種と検診が、国の継続的事業として無料で受けられること 2. 検診と予防ワクチンの啓発推進 3. 子宮頸癌予防のための検診とワクチンの重要性を教育すること

子宮頸がん予防ワクチン要望書リスト (2009年12月14日現在)

2009年12月3日	市民のためのがん治療の会 国立病院機構北海道がんセンター	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ほぼ確実に子宮頸がんが予防できる手段を可及的速やかに実施する</li><li>2. 11-14歳女児に対するワクチンの学校での定期接種を個人負担なしで行う</li><li>3. 保険収載することにより、3割分を自治体の小児医療等での扱いにし、財政的な解決が望める</li><li>4. 毎年16000人罹患する子宮頸がんを減らすことにより少子化対策になる。</li></ol>
------------	---------------------------------	---

勉強会

ワクチンで予防できる「がん」・子宮頸がん対策について

## 子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン） について

自治医科大学医学部 産科婦人科学講座教授  
日本産婦人科医会 常務理事  
子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 実行委員

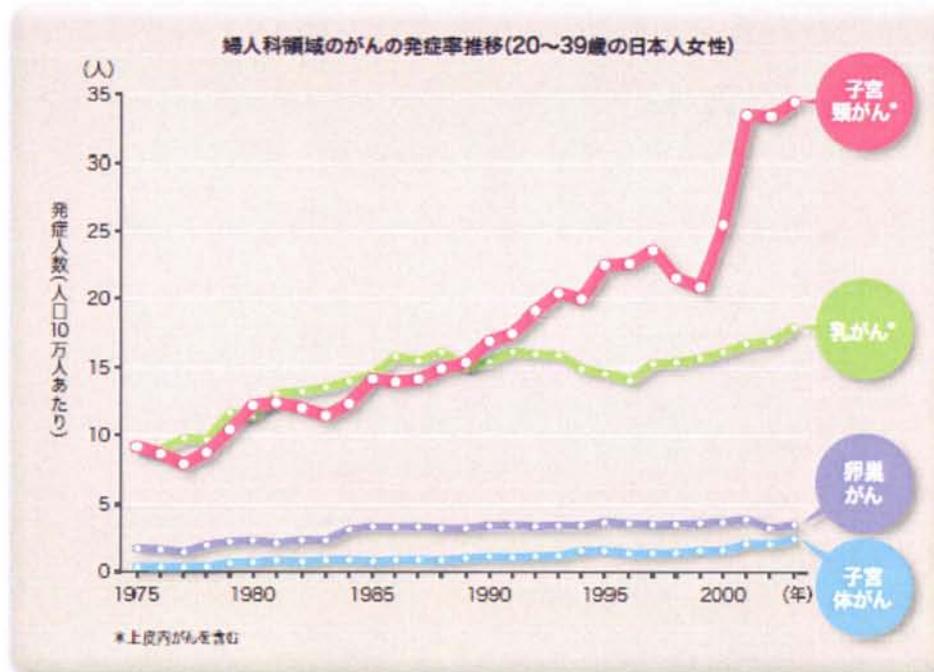
鈴木 光明

2010年2月26日，自民党本部

### 日本における子宮頸がんの発症数と死亡数

- 1年間に約15,000人の女性が子宮頸がんを発症している
- 1年間に約3,500人の女性が子宮頸がん で死亡している
- 20～30歳代女性で、子宮頸がんは罹患率・死亡率ともに増加している

# 日本における20～39歳の女性10万人当たりの 各種がんの発症率推移



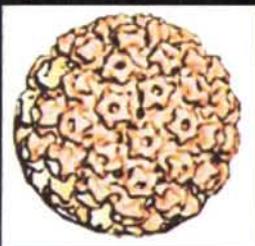
国立がんセンター がん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働省人口動態統計情報部)  
<http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/statistics.html>

## 子宮頸がんの原因

ありふれたウイルスの感染が原因！

### ヒト・パピローマウイルス (HPV)

- 皮膚や粘膜などにイボをつくるウイルス
- 100種類以上のタイプ(型)がある
  - 30～40種類が性器に感染
  - 15種類程度ががんの原因になる「高リスク型」
  - 特にHPV 16型と18型は、子宮頸がんの原因の70%を占めている重要な型
- 非常にありふれたウイルス
  - 性交渉の経験がある女性であれば60～80%が一生涯に1度は感染を経験



# がんで最も高頻度に見つかる異常

## 1. テロメア長の維持(ほぼ100%)

テロメラーゼの活性化(約85%)

ALT機構(約15%)

## 2. p53経路の異常(90% $\lt$ )

p53の変異(約50%)

HDM2の増幅, p14<sup>ARF</sup>の異常, ASPPの発現低下

## 3. pRB経路の異常(90% $\lt$ )

p16<sup>Ink4a</sup>プロモーターのメチル化(約30%)

Rbの異常、CDK4、Cyclin Dの高発現

E6

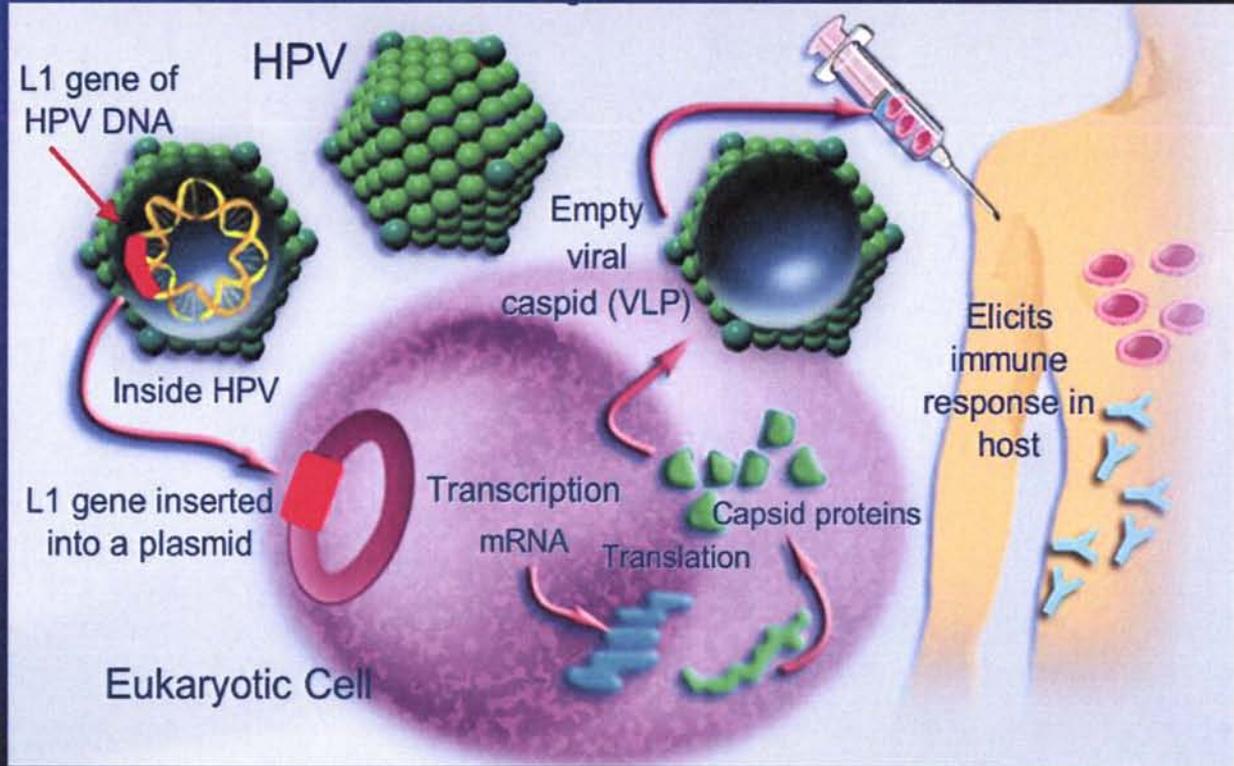
E7

高リスク型HPVのE6とE7はこれら3つを全て引き起こす！

子宮頸がんはウイルス発癌といえる

現行の子宮頸がん予防ワクチン  
(HPVワクチン)のエビデンス

# Development of HPV vaccine Assembly of Virus-Like Particle (VLP)



遺伝子組み換え技術によって作製された人工的なワクチン

## HPV予防ワクチンの臨床試験における代替指標



HPVの持続感染および子宮頸癌の前駆病変であるCIN2,3、AISを代替指標とすることが世界的コンセンサスを得ている。

## Q; 効果の持続はどうか

1. すでに6年以上は高い抗体価が持続することが確認され、下がる傾向はない。20年間以上効果が持続すると予想される。
2. 自然感染による抗体価の数十倍の高い抗体価が得られる。またboosterにもよく反応することも確認されている。
3. 成人に比べ前思春期、思春期早期少女では抗体価が高くなり、またそれが持続する。

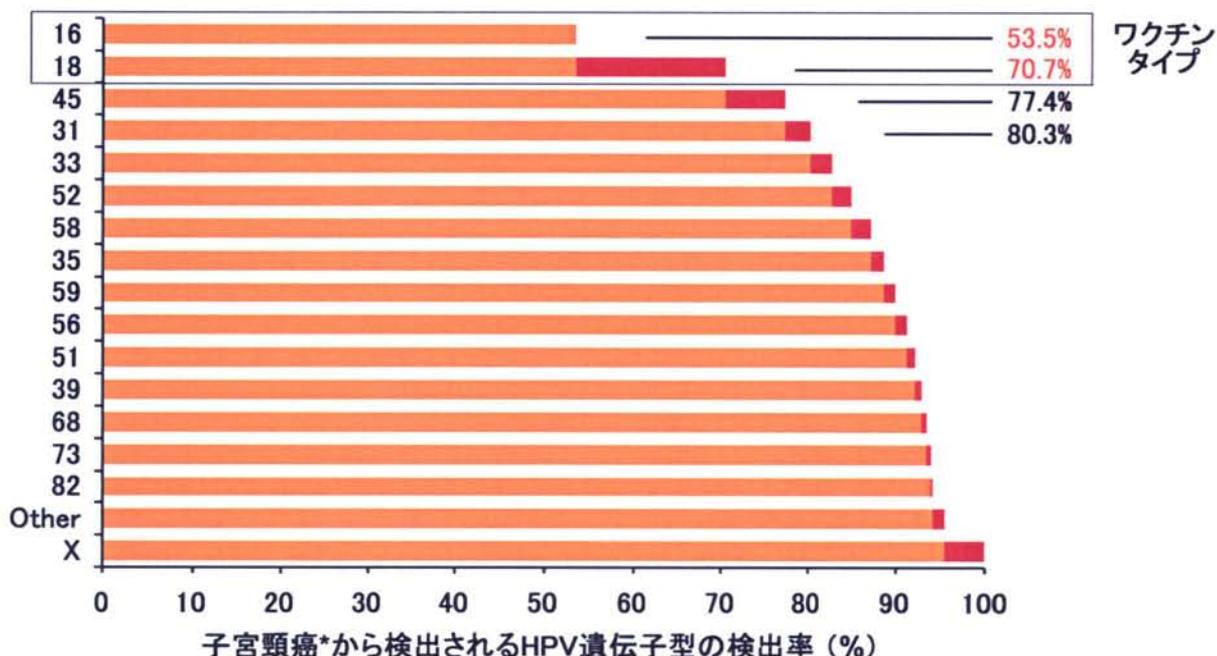
## Q; 子宮頸がんの何%を予防できるのか

1. 欧米では、子宮頸癌のうちHPV16/18陽性は70%以上だが、日本では約60%である。
2. 子宮頸癌のHPV16/18陽性は20-30歳代に限ると80%強。日本では若年化が進んでおり、HPV16/18陽性頻度が今後上昇する可能性もある。
3. 腺癌に限るとHPV16/18陽性は90%。
4. クロスプロテクションの期待もあり、Cervarix®では上乗せ効果が期待される：76%（推計）

(cf. トピックス参照)

# 世界における子宮頸癌に関連する 発癌性HPVの遺伝子型

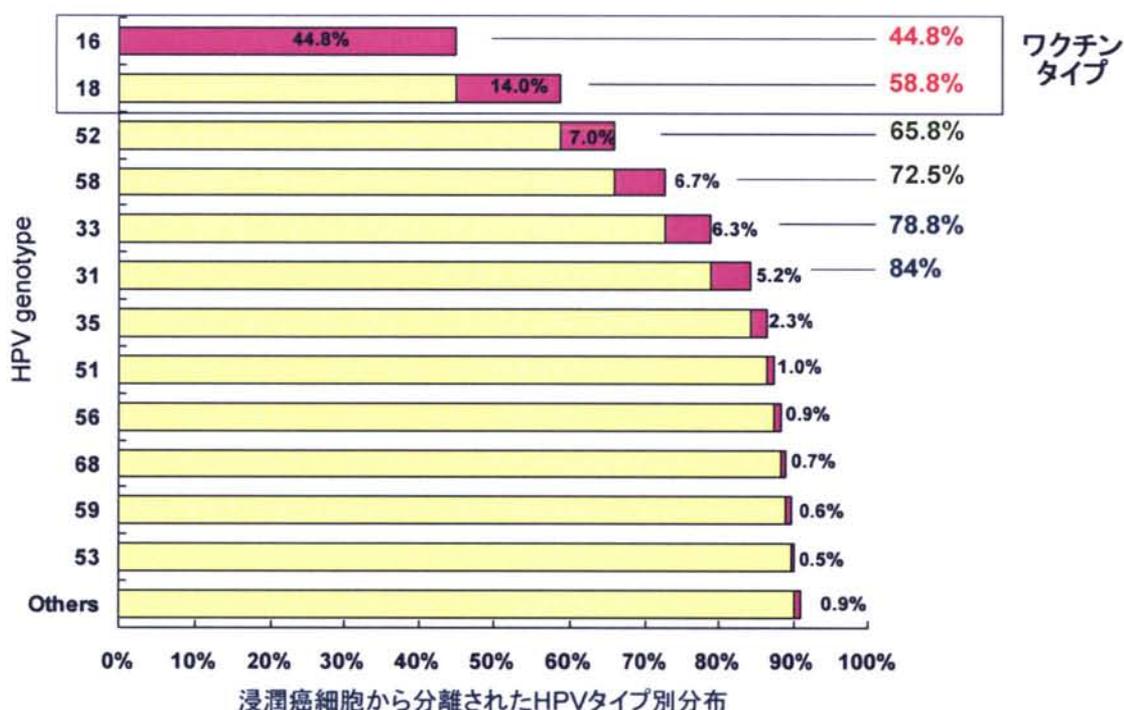
HPV 遺伝子型



\*扁平上皮癌、腺癌、腺扁平上皮癌

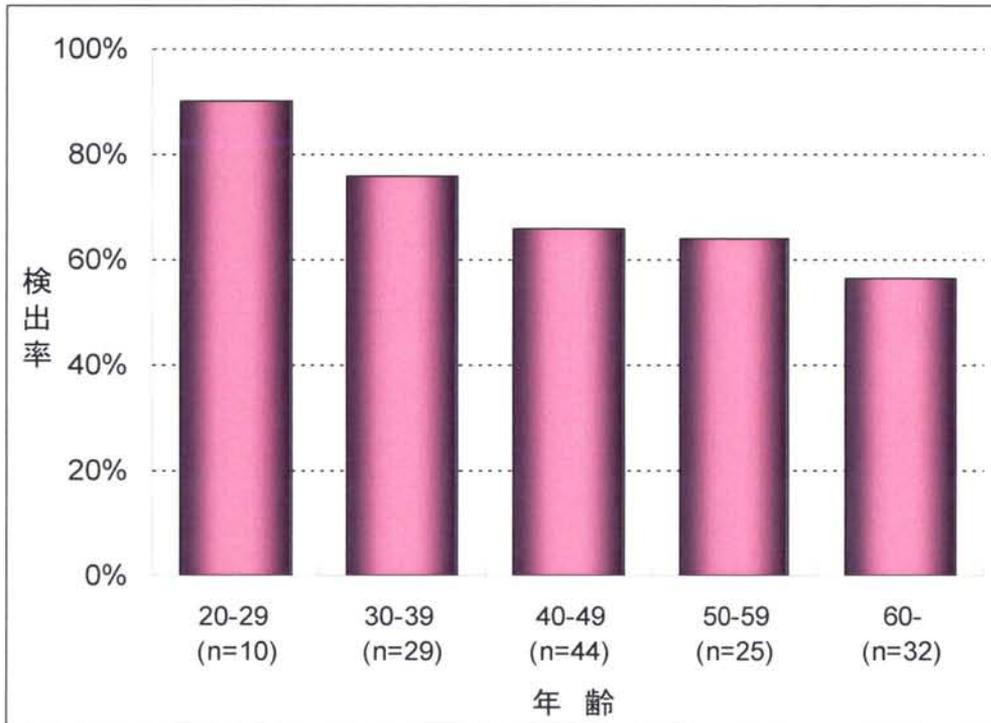
Muñoz N et al. Int J Cancer 2004; 111: 278-85

# 日本における子宮頸癌に関連する 発癌性HPVの遺伝子型



Miura S et al.: Int.J.Cancer. 119, 2713-2715, 2006

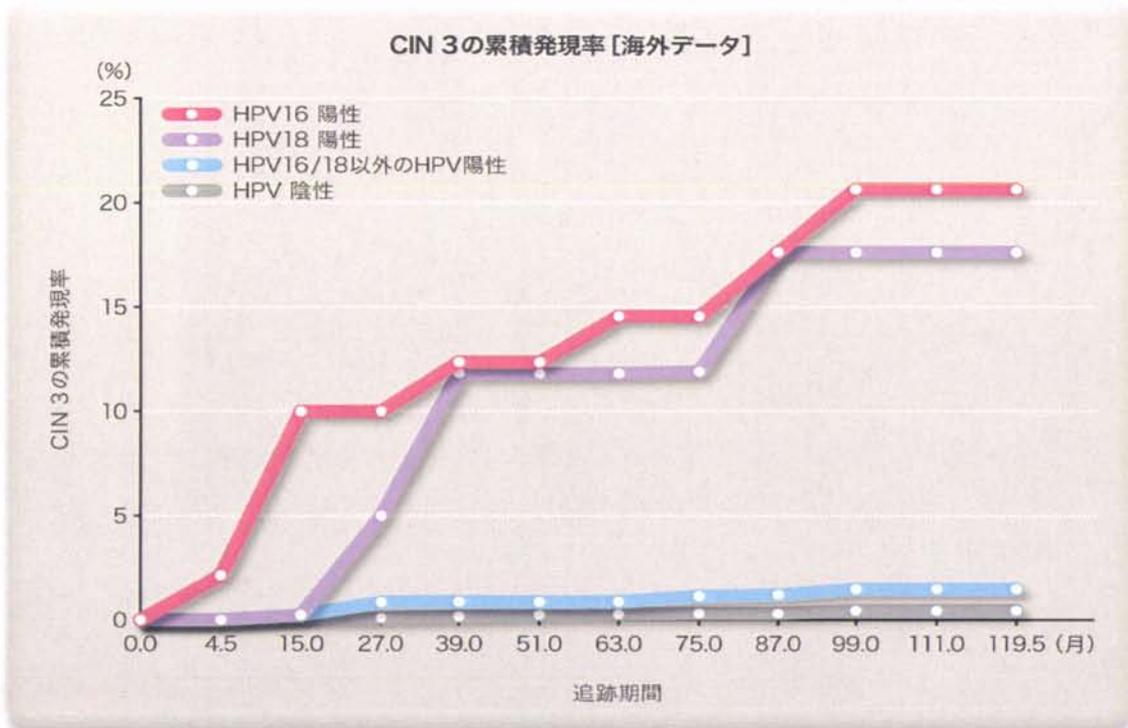
## 日本人子宮頸がん患者におけるHPV-16/18の年齢別検出率



20-40歳の若年女性ではHPV-16/18の頻度が高い(約80%)

Onuki M et al.:Cancer Sci. 100, 1312-1316, 2009より作図

## HPV型による高度上皮内病変(CIN3)の発生率



HPV16/18は高度上皮内病変(CIN3)の発生率が高い

Michelle J K et al.: J National Can Inst. 97(14), 1072-1079, 2005

# HPVワクチン(Cervarix)のクロスプロテクション効果

PATRICIA: HPV 008試験

対象群: TVC-naïve\*

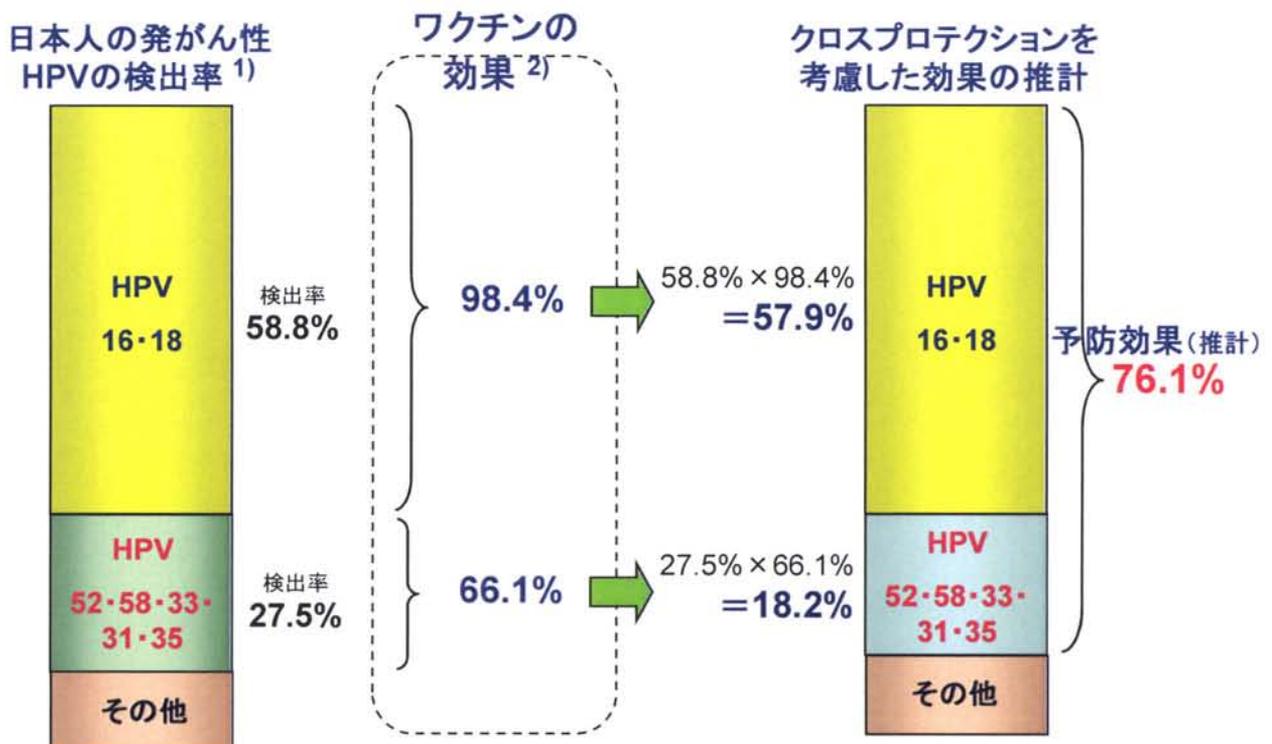
HPV型	Vaccine efficacy		P-value
	%	96.1% CI	
HPV-31/45	100	82.2-100	<0.0001
HPV- 31/33/45/52/58	68.2	40.5-84.1	<0.0001
HPV- 31/33/35/39/45/52/51/56/58/59	68.4	45.7-82.4	<0.0001
A9 species (HPV- 31/33/35/52/58) <b>日本人に多いタイプ</b>	66.1	37.3-82.6	<0.0001
14タイプの発がん性HPV (HPV-16/18/31/33/35/39/45/51/52/56/58/59/66/68)	77.3	36.0-93.7	0.0009

\*ワクチン接種時にHPV非感染・血清抗体陰性・異形成なし

Paavonen J et al.: 25<sup>th</sup> IPvC, Malmö, Sweden 2009

Paavonen J et al.: Lancet. Jul. 7, 2009

## 日本人に対するワクチン(Cervarix)の効果の推計



1) Miura S et al.: Int.J.Cancer. 119, 2713-2715, 2006

2) Skinner SR et al. IPvC, Malmö, Sweden 2009

## Q; 接種対象は

### 1. 第一の接種推奨対象：11～14歳の女児

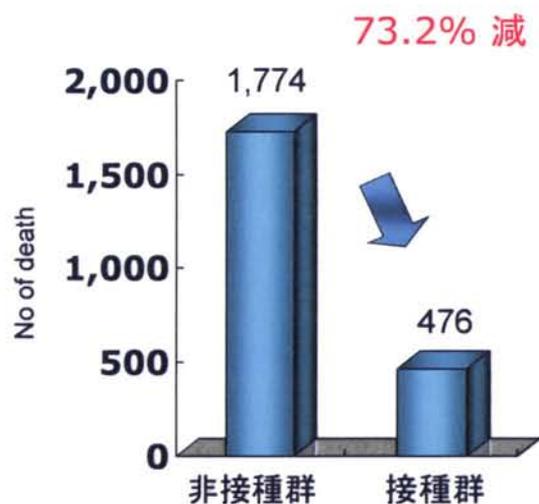
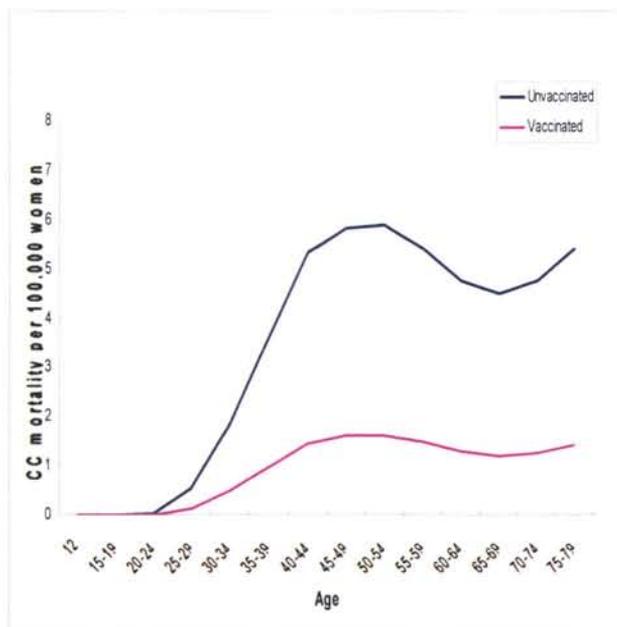
- ・ 初交前：HPV未感染
- ・ 高い抗体価と安全性

### 2. 第二の接種推奨対象：15～45歳の女性

- ・ 未感染のHPV型による疾患の予防
- ・ 次のHPV感染予防：細胞性免疫によりHPV排除
- ・ 45歳までの有効性、55歳までの安全性と抗体価の上昇
- ・ 医療経済学的に45歳までの女性に恩恵

## 第一の接種対象(11～14歳)へのワクチンの効果は？

12歳女児に対して子宮頸がん予防ワクチンを接種した場合、その年代の子宮頸がんによる死亡数を約1,200名(73.2%)減らす。



累積死亡数

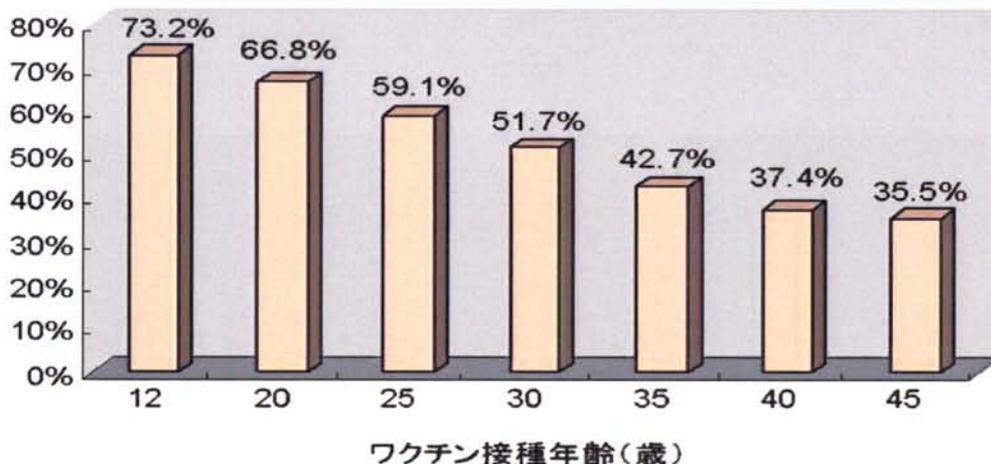
[条件] HPV16/18 検出率：71%  
定期検診率：14%/不定期検診率：40%

(投稿準備中)

# 第二の接種対象（15～45歳）へのワクチンの効果は？

HPV ワクチン接種年齢別子宮頸がん死亡減少率

—すでに発癌している女性を含む—



第二の接種対象(15～45歳)にも効果が期待できる

## 副作用:サーバリックス国内臨床試験(032試験:n=512)

評価項目		HPVワクチン群		対照群(HAV)		
		発現例数	発現率	発現例数	発現率	
局所の特定症状	評価例数		512例	—	510例	—
	疼痛	すべて	508例	99.2%	214例	42.0%
		グレード3	54例	10.5%	1例	0.2%
	発赤	すべて	455例	88.9%	287例	56.3%
		>50mm	44例	8.6%	44例	8.6%
	腫脹	すべて	401例	78.3%	165例	32.4%
>50mm		34例	6.6%	34例	6.7%	
全身の特定症状	評価例数		512例	—	510例	—
	関節痛	すべて	113例	22.1%	48例	9.4%
		グレード3	7例	1.4%	1例	0.2%
	疲労	すべて	316例	61.7%	254例	49.7%
		グレード3	21例	4.1%	7例	1.4%
	発熱(腋窩)	すべて	28例	5.5%	19例	3.7%
		39.1-41.1(°C)	0例	0.0%	1例	0.00002%
	胃腸症状	すべて	135例	26.4%	124例	24.3%
		グレード3	7例	1.4%	8例	1.6%
	頭痛	すべて	201例	39.3%	181例	35.4%
		グレード3	10例	2.0%	7例	1.4%
	筋肉痛	すべて	252例	49.2%	109例	21.3%
		グレード3	12例	2.3%	1例	0.2%
	発疹	すべて	30例	5.9%	22例	4.3%
グレード3		1例	0.2%	1例	0.2%	
蕁麻疹	すべて	14例	2.7%	17例	3.3%	
	グレード3	2例	0.4%	6例	1.2%	

## 副作用:サーバリックス国内臨床試験(032試験:n=512)

評価項目		HPVワクチン群		対照群(HAV)		
		発現例数	発現率	発現例数	発現率	
局所の特定症状	評価例数		512例	—	510例	—
	疼痛	すべて	508例	99.2%	214例	42.0%
		グレード3	54例	10.5%	1例	0.2%
	発赤	すべて	455例	88.9%	287例	56.3%
		>50mm	44例	8.6%	44例	8.6%
	腫脹	すべて	401例	78.3%	165例	32.4%
		>50mm	34例	6.6%	34例	6.7%
全身の特定症状	評価例数		512例	—	510例	—
	関節痛	すべて	113例	22.1%	48例	9.4%
		グレード3	7例	1.4%	1例	0.2%
	疲労	すべて	316例	61.7%	254例	49.7%
		グレード3	21例	4.1%	7例	1.4%
	発熱(腋窩)	すべて	28例	5.5%	19例	3.7%
		39.1-41.1(°C)	0例	0.0%	1例	0.00002%
	胃腸症状	すべて	135例	26.4%	124例	24.3%
		グレード3	7例	1.4%	8例	1.6%
	頭痛	すべて	201例	39.3%	181例	35.4%
		グレード3	10例	2.0%	7例	1.4%
	筋肉痛	すべて	252例	49.2%	109例	21.3%
		グレード3	12例	2.3%	1例	0.2%
	発疹	すべて	30例	5.9%	22例	4.3%
		グレード3	1例	0.2%	1例	0.2%
	尋麻疹	すべて	14例	2.7%	17例	3.3%
グレード3		2例	0.4%	6例	1.2%	

申請時評価資料

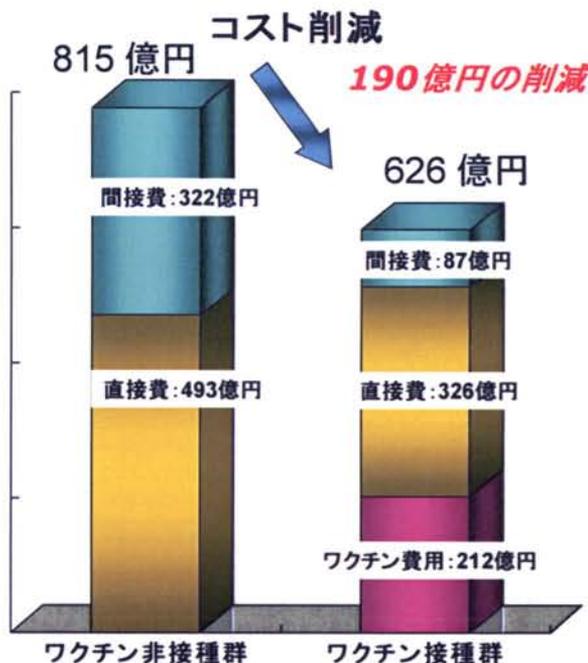
子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)  
の医療経済性ならびに公費助成状況

## Q; ワクチンの医療経済性は

1. すべての**12歳**女兒に接種した場合、社会全体に対し約**190億円**の削減になる。
2. **10~29歳**までは社会的費用が削減される。
3. **30~45歳**までは費用増ではあるが、**増分費用効果比**で評価すると**効率的**といえる。

### 子宮頸がん予防ワクチンの医療経済データ

- 子宮頸がん予防ワクチンを**すべての12歳の女兒に接種**した場合、社会全体に対し約**190億円**の削減になる-



- 間接費:  
がん死亡による死亡損失、通院・入院による労働損失
- 直接費:  
治療費と再検査(患者の自己負担も含まれる)
- ワクチン接種費用:  
・36,000円/コース、12歳女兒58万人

## 海外における子宮頸がん予防ワクチンの公費負担の状況

	優先対象年齢	キャッチアップ接種対象	公費負担状況
オーストラリア	12～13歳女子 学校での接種	13～18歳女子学生、19～26歳の女性 (2年間のキャンペーン)	全額公費負担 (12～26歳)
アメリカ	11～12歳女子	9～10歳女子(医師が必要と判断した場合)、 13～26歳の女性	公費負担あり (接種対象に対し、テキサス、バージニア 州などいくつかの州)
イギリス	12～13歳女子	18歳まで(2年間のキャンペーン)	全額公費負担(12～18歳)
イタリア	12歳女子	地方自治体によって違う(ほとんどが13歳)	全額公費負担(12歳)
フランス	14歳女子	15～23歳(性交渉前か初交から1年以内の女性)	国民医療保険で65%カバー (14歳～23歳)
ドイツ	12～17歳女子	なし	医療保険から全額償還 (12歳～17歳)
オランダ	12歳女子	13歳～16歳	全額公費負担(12～16歳)
デンマーク	12歳女子	13～15歳女子	全額公費負担 (12～15歳)

世界の26か国で公的補助によるワクチン接種が行われている

## イギリス(イングランド)におけるHPVワクチンの接種状況

- 2007年10月26日英国政府が合同予防接種委員会(JCVI: Joint Committee on Vaccination and Immunization)の勧告を受けて、子宮頸癌予防のためのHPVワクチンプログラムを開始。
- 2008年9月から12-13歳の中学生女子全員を対象にHPVワクチンの接種を開始。2009年8月までにcatch-up対象を18歳まで拡大するキャンペーンを開始。
- イングランドにおけるHPVワクチン接種状況
  - 12歳～13歳(優先接種対象): 83%
  - 17歳～18歳(追加接種対象): 32%
  - 19歳～26歳(推奨なし、公費負担なし): 不明

## 子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)の自治体公費助成状況

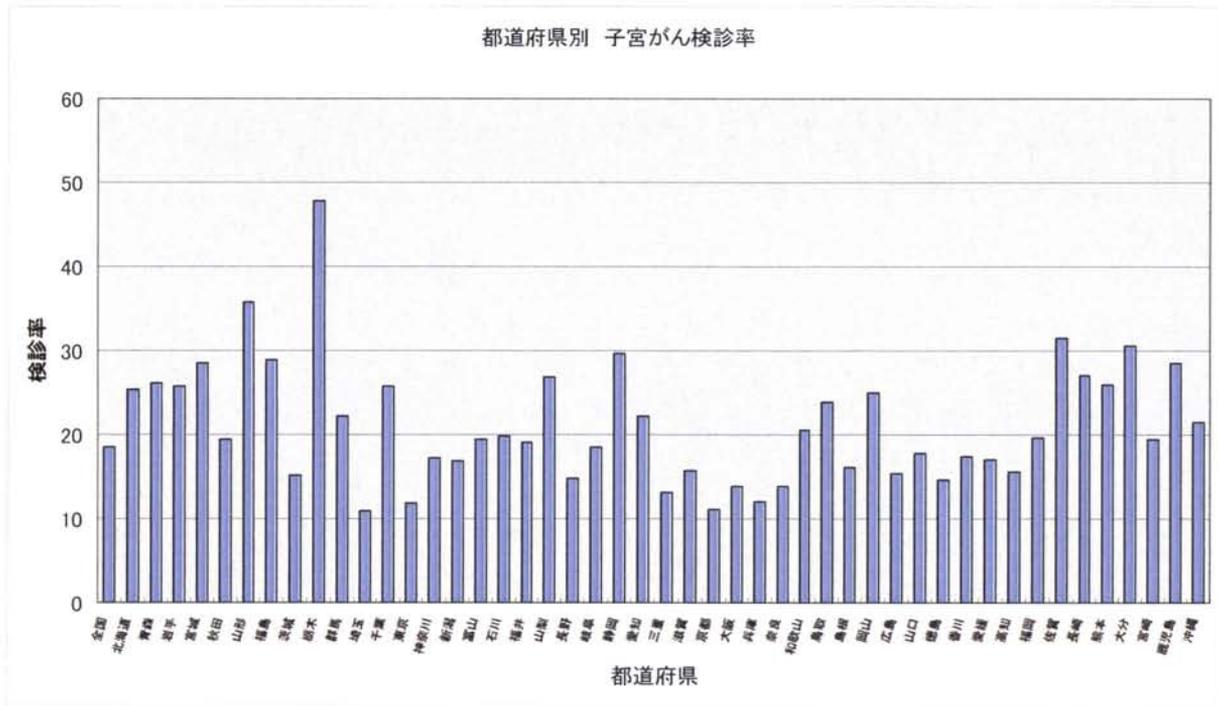
県	市区町村	発表日	対象年齢・人数	助成予定金額	助成形態	助成開始予定	広報媒体
新潟県	魚沼市	2009/12/10	12歳前後(未決定) 200名	1000万円	全額助成	2010年春	魚沼webニュース
愛知県	名古屋市	2010/1/3	11-14歳 2万人	8億円	半額助成	2010年秋	新聞
埼玉県	志木市	2010/1/21	小6~中3 1200名の接種率10%	700万円前後	全額助成	未定	新聞
兵庫県	明石市	2010/1/22	小6~中3 各1500名 計6000人	8000万円	全額助成	未定	新聞
新潟県	南魚沼市	2010/1/29	小6を対象として検討中 325人	1170万円	全額助成	未定	新聞
東京都	杉並区	2010/2/1	新中学生 1600人	1970万円	全額助成	未定	新聞
栃木県	大田原市	2010/2/2	小6 374名	1100万円	全額助成	6月・7月・12月	新聞 市内19カ所に個別接種を委託
北海道	幌加内町	2010/2/6	女子中学生3学年 15名	未公表	全額補助	2010年4月	3月の議会にかけて決定予定 webニュース
栃木県	下野市	2010/2/15	小学6年生 約300人	1500万円	全額助成	未定	1回15000円を予定 webニュース
栃木県	日光市	2010/2/17	小6~中3対象	Hibワクチンと共に 1000万円	全額助成	未定	Webニュース

2010年2月18日現在

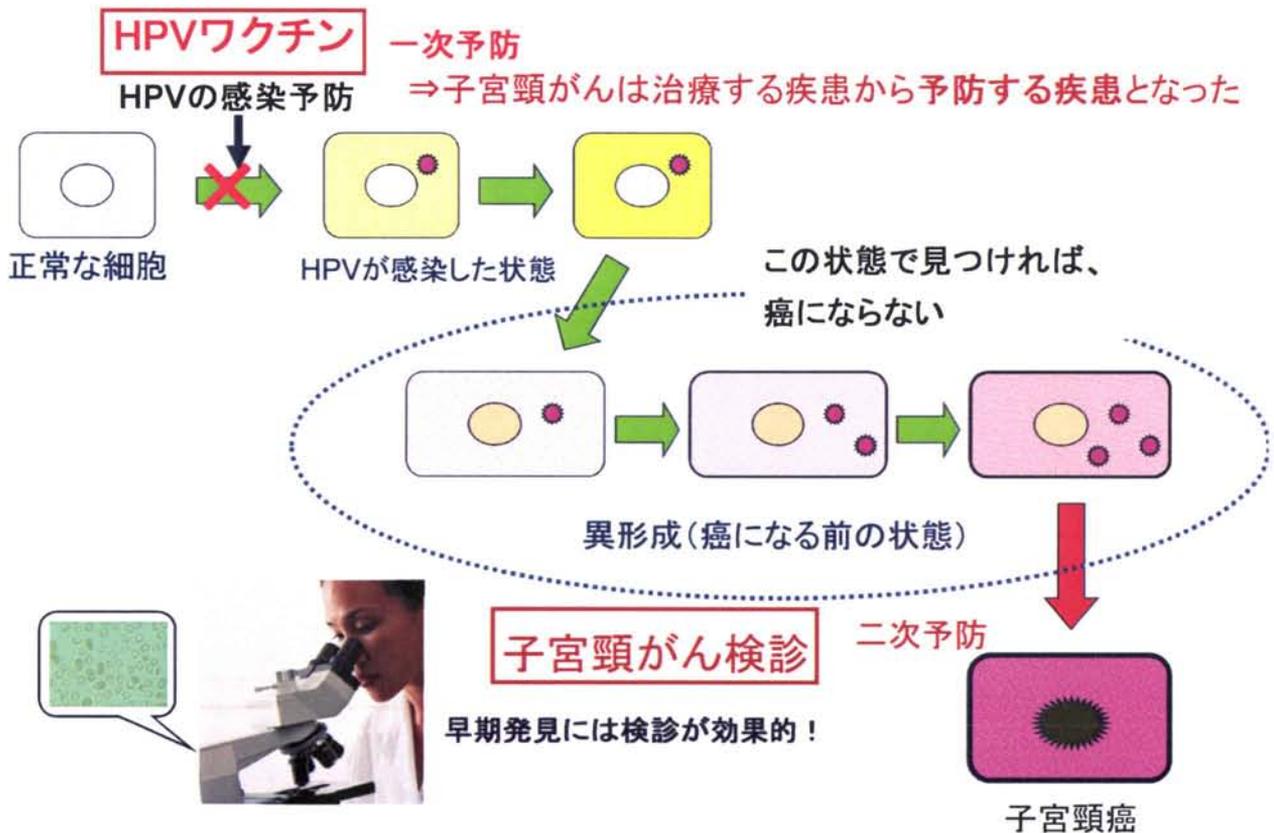
### Q; 子宮頸癌検診は変わりますか

1. 現状の子宮頸癌検診を継続すべきである。
2. 主なワクチンの対象者は10~15歳の少女であり、当分の間、癌検診者の対象とは別の年代層である。
3. HPV31/33/35/45/52/58などを含む多価ワクチンが10-15歳少女に投与される時代になれば、ワクチン接種者は30~35歳頃にHPV testingで検診を行い、HPV陽性者だけを対象に細胞診での癌検診を行う時代が来るとの予測もある。

# 子宮がん検診率の地域格差



## 子宮頸癌は早期発見と予防が可能



## 子宮頸がん予防ワクチンの接種にあたっての問題点

十分な効果を達成するためには全女兒(女性)に  
公平に広く接種する必要がある



なんらかの公的補助が不可欠

唯一の“がん予防”ワクチンである  
女性の命と子宮(子孫)をまもるために！

# 子宮頸がん対策の推進に関する勉強会

2010年2月26日 自民党本部

## ～患者からのメッセージ～

子宮頸がん経験者

NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会 理事長

松本陽子

## 自己紹介

- 1965年 愛媛県出身
- 1984年 父親をがんで喪う
- 1988年～ NHK松山放送局でニュース番組、情報番組のキャスター  
医療問題を中心に取材 番組制作も担当
- 1999年 子宮頸がんが見つかり手術と化学療法を受ける
- 2008年 愛媛がん患者・家族会 おれんじの会を設立
- 2009年 NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会に改組
  
- 現在 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長  
愛媛県がん診療連携協議会 委員  
愛媛県がん対策推進協議会 委員  
愛媛県女性の健康支援事業検討委員会 委員  
フリーアナウンサー



←ニューススタジオで

スタッフと一緒に  
取材へ →



3

## わたしの闘病

1999年6月 子宮頸がんが見つかる

7月 子宮摘出手術

9月～ 抗がん剤治療 3クール

11月 退院

以降3年間 経口抗がん剤服用

退院直後  
脱毛したためバンダナを  
使っている →



4

# 子宮頸がんに関する意識調査

★調査主体：ワタシのカラダまもり隊

★調査対象：主に愛媛県内在住の一般女性

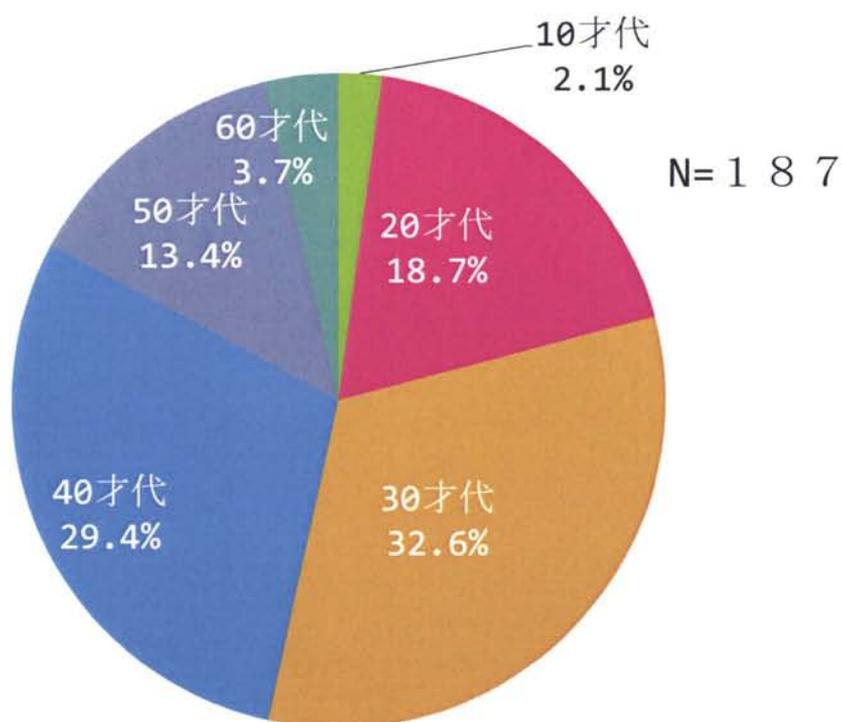
★調査方法：メール、直接手渡しなどで配布、回収

回答数 187

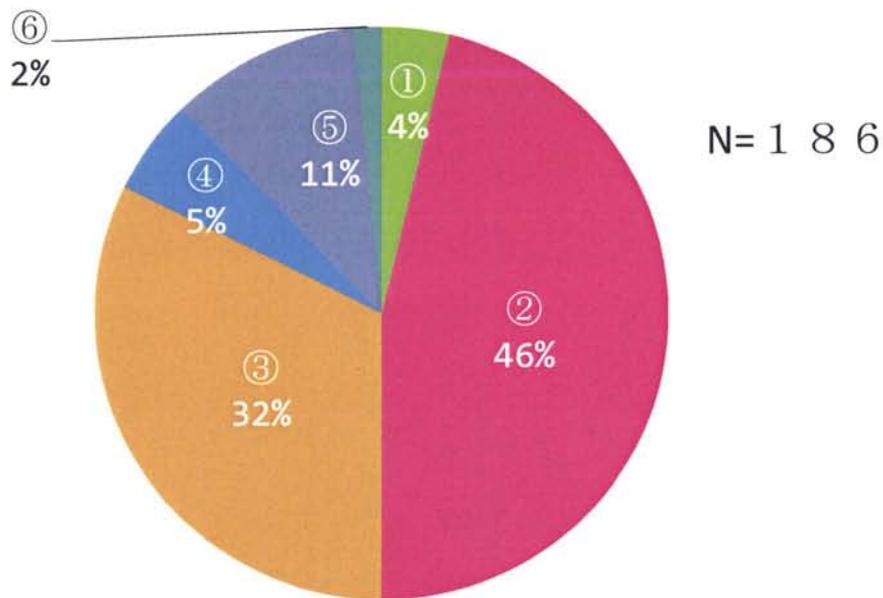
★調査時期：2009年8月

5

## 問1：年齢区分



## 問2: 所属は？



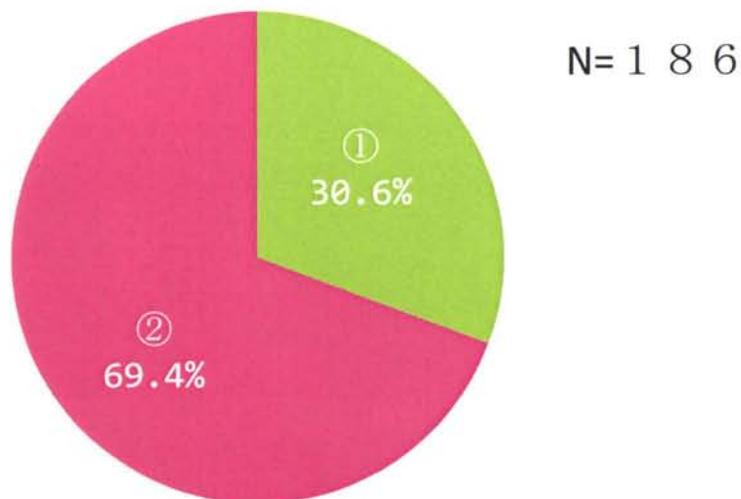
① 学生  
④ 自営業

② フルタイム勤務  
⑤ 専業主婦

③ パート勤務  
⑥ その他



問7: 子宮頸がんの主な原因は  
ウイルス（ヒトパピローマウイルス）で性交渉に  
よって感染するというのを知っていますか？

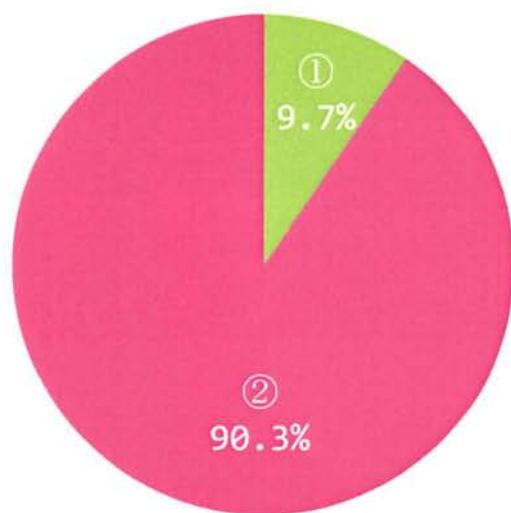


① 知っていた

② 知らない



問8:子宮頸がんはワクチンで予防でき、  
海外では100カ国以上で使用されていること  
を知っていますか？



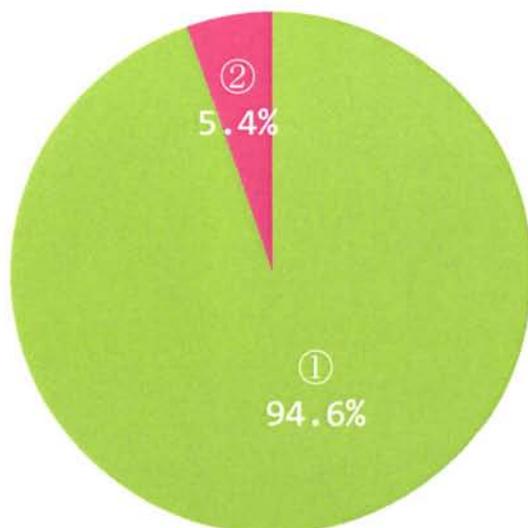
N=186

①知っている

②知らない



問9:子宮頸がんについて情報を知りたいと  
思いますか？



N=185

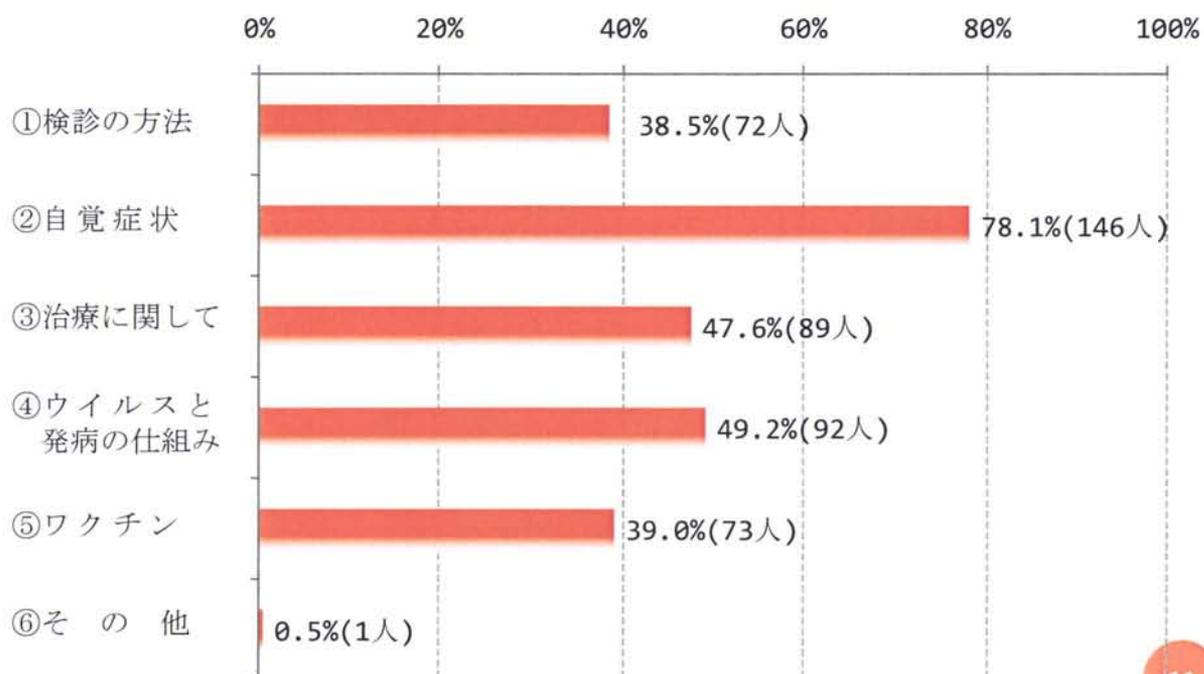
①知りたい

②知りたくない



# 問10:子宮頸がんについてどういう情報を知りたいですか？(複数回答)

N=187



## 愛媛での取り組み

### 『がん対策推進員』事業

… 地域の健康ボランティアのネットワークを活用し、  
検診の呼びかけを図る

2012年度までに10,000人！

- \* 専門家の講演
- \* 経験者からのメッセージ



# わたしのよな思いを 誰にもしてほしくないのです

34歳のわたし。  
脱毛していた時の写真は  
たった1枚。  
このときからの闘いは  
カタチを変えて現在も続いています。



ご静聴ありがとうございました